



## 「学術研究Ⅱ 中間発表②」

### 各班の発表の様子

6月26日、中間発表②において、ゼミ毎に発表・意見交換が行われました。東京研修も間近に控えている中、自分たちの研究を見つめなおし、また他人から客観的に評価してもらう良い機会となりました。一部抜粋にて紹介します。

## レジュメ形式

### ○化学ゼミ(発表10分～15分)

各班のレポートを読み合い、その後質疑応答をした。東京研修に向け、現状や今後について考えをまとめることができた。

### ○数学ゼミ(発表5分～10分)

高度な内容に挑戦している班が多く、行き詰まっているところも見られた。聞く側は、もっと積極的に質問すべきだった。

### ○英語ゼミ(発表4分～5分)

質問がたくさん出て、活発な発表会になった。先生から、このやりとりを班内でもすると良いとご指摘をいただいた。

### ○音楽ゼミ(発表6分～10分)

方法が、序論や仮説と結びついていないところがほとんどだった。正しいデータが得られる方法へ改善していきたい。

### ○家庭ゼミ(発表6分～10分)

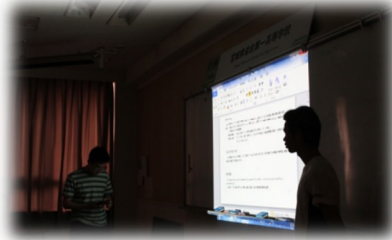
実際に避難所運営を行った際の弊害について指摘があった。より深く踏み込んで研究してほしいという意見もあった。



## レジュメ投影形式

### ○地歴ゼミ(発表5分～6分)

様々な生徒から質問が投げかけられた。先生からの指摘に詰まってしまう班がほとんどで、研究に対する認識の甘さを感じられた。「相手を見て話す」こともまだまだ不十分だった。



# スライド形式

## ○物理ゼミ(発表7分半～8分)

実験に関する質問は、自分の班にとっても有益であった。郊外研修に向け、使える時間を使って実験を進めたい。

## ○生物ゼミ(発表6分～7分)

実験の改善案がほかの班から出たのが良い点であった。課題は、得られた値の扱い方を見直す必要があるということだ。

## ○地学ゼミ(発表5分以内)

メンバー全員が一つ以上質問し、先生からもアドバイスをいただいた。班の垣根を超えて共通理解を図ることができた。

## ○情報ゼミ(発表5分～7分)

パワーポイントはみな洗練されたものであった。研究にどこまで具体性を持たせるかについて大いに質問が盛り上がった

## ○国語ゼミ(発表7分～10分)

他の班から少しでも多くのことを学び取ろうとする姿勢がみられた。研究の意義を見出すことが大事との講評を得た。

## ○公民ゼミ(発表8分～10分)

スライド発表ならではの「グラフ」に対する言及が多く、研究の考察とは相互関係があるのかといった鋭い質問もあった。

## ○保体ゼミ(発表5分～6分)

前回の時よりも濃い内容になり、それぞれの班で中身も深まっていた。鋭い指摘ができるほど、皆集中して聞いていた。

## ○災害研究ゼミ(発表6分以内)

研究に対する理解の深さが研究の完成度につながると思う。しかし、今回はまだそれが十分とは言えなかった。



## 今後の予定

7月	5日	東京校外研修
	6日	〃
	10日	さくらサイエンス710
9月	18日	ゼミ毎ポスター発表
10月	26日	第一回学校公開



## 編集後記

発表形式ごとで分けて紹介したが、それぞれに特徴があり、工夫しながら考えを述べていたと感じる。伝えたいことを簡潔に示す。東京研修でも、念頭に置いておきたいものだ。

(文責 大塚・松沢)